

には、リンクがあります。 は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

<b>事業所名</b>	サンバード茶屋町
日付	平成19年2月2日
	特定非営利活動法人
<b>評価機関名</b>	ライフサポート
評価調査員	在宅介護経験12年
評価調査員	老人保健施設介護経験6年、居宅支援事業所介護支援専門員経験6年
<b>自主評価結果を見る</b>	
<b>評価項目の内容を見る</b>	
<b>事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)</b>	

### 外部評価の結果

<b>講評</b>
全体を通して(特に良いと思われる点など) 「いつまでも生きがいを持って、暮らしていただきたい…」が、このグループホームの全てであると訪問して「なる程」と納得した。 97歳の男性、本来なら一家の老主人。誰もが床の間に座してもらって、という感じであるが、朝起きるとリビングルームに来てモップで拭き掃除をする。食卓を拭き、配膳を手伝う等、率先して家事を手伝っていた。「家では何もしなかったのに」と家族は驚いている。さぞ喜んでいるだろう。「この人は器用なよ」と利用者も尊敬の意を込めて言う。この男性、強制されたのではない。多分このホームで、自分は何をしたら、皆の役にたつのだろうかと考えたに違いない。そして、このホームの利用者、職員の培っている雰囲気と気持が、この利用者の気持を掻き立てるのだろう。これが、自分の生きがいを持って暮らす共同生活をつくり上げている結果だろうと思った。 他にも「ホームの発明家エジソンさん」「大輪の菊作りに励む人」「刺し子に夢になっている人」「氷川きよしの大ファン」「貼り絵や折り紙をする人」「白菜の漬物をする人」等それぞれ自分の趣味に生きている人が多い。又、炊事や家事を手伝っている。 「無理にしてもらうことはしない。楽しく生活していただくために、個別の思いや希望を傾聴し、受容し、その人の能力を充分に発揮してもらいます。そして家族や地域の人の協力を仰ぎ、満足感や充実感を味わってもらえるよう対応しています。これが人に役立つ実感味わい、自信に、そして気持ち良い生活へと繋がっていきます」と管理者は笑顔で話してくれた。
特に改善の余地があると思われる点 次のような提案をした グループホームからの便りは家族に安心と喜びを与えてくれる何よりのもの、家族と共に歩んでいくホームを続けていって欲しい。 在宅介護で悩んでいる地域の人の駆け込み寺の役割を担って、もっと地域に溶け込んで欲しい。 利用者の生活場面に感動したこと等と利用者の言葉等を混じえた記録があると嬉しい。

### I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
<b>記述項目</b>	<b>グループホームとしてめざしているものは何か</b> 「いつまでも生きがいを持って暮らしていただきたい」の理念のもと、利用者にADLを維持して生活してもらいたいと願っている。 毎日、近所の地神さまを参拝したいという希望に体調や交通量等周囲の環境を考慮して家族に相談して、ゴーサインを出している。職員は利用者をよく理解し、自主性を大切に生活をしていると感じた。 入院していた利用者が退院する時に、「家に帰るか、グループホームに帰る？」と尋ねたら、「グループホームが良い」と言ったそうだ。このグループホームの目指している「第2の我が家」である。 家族も「ここでずっとお世話になりたい」と強い要望を抱いており、いつまでも暮らせるよう職員も同じ思いで日々接している。		

### 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
<b>記述項目</b>	<b>入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か</b> グループホームのエジソンと言われている利用者は発明家、工夫した作品が所狭しと並び、毎日作品作りに精を出している。利用者は作品に自分の思いを記し、職員に伝えることが楽しみの一つ。各部屋はそれぞれの個性が溢れている。ユニットの間にある広々とした空間には屋根付ウッドデッキがあり、そこで両方のユニットの人が交流している。2つのユニットの目指している事は同じであるが、管理者、職員と利用者の違いからそれぞれに違った風を感じる。それぞれに利用者の思いを叶える取り組みもあり、幸せな人間の生活感を見る事ができた。		

### ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人ですることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

### III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にされた整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物支援		
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
<b>記述項目</b>	<b>一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か</b> 「一人ひとりのできる事を見極めてあげ、それを実現する事が自信になり、自分が皆の為に役立っていると実感してもらいながら気持ちよく生活出来る」との思いで職員は皆で利用者の出来る事を引き出すことに努力している。そして利用者のすることは自分で決めるという自由でのびのびとした雰囲気をつくっている。そして職員はさりげなくそれぞれの人に声かけしたり気配りしながら、一人ひとりの生活の不足分を支援している。 掃除や配膳などは男女の区別無く、何でも出来る範囲のことをしながら、その人なりの生活リズムができていいるのだと思う。 入浴中には利用者職員の間で意外と本音が聞けるようで、話をしっかりするようになって、ケアに活かしている。利用者とのコミュニケーションを大切にして、利用者の心を引き出すきっかけ作りもしている。		

### IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
<b>記述項目</b>	<b>サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。</b> 家族から「お父さんはいいね。いろんな所に行けて」と羨む声も聞く。利用者は上手に漬物を漬けて皆で美味しく食べる。菊作りでたくさんの大輪を咲かせ、来年は懸崖菊作りに挑戦するのか。習字の作品も心が籠っている。利用者の出来る事は決して無理をせず、その人の能力や興味に応じて挑戦してもらっている。 取り立てて利用者をお客様扱いにするのではなく、自然に家族のように言葉を交わせる関係をつくっている。又、担当者会議に時には家族も参加してもらい、お互いの情報の交換もしている。 家族は「1日でも長くここで過ごさせてやりたい」との希望も聞くにつけ、利用者の今の状態を長く続けることが出来るように職員全員で頑張っている姿を見た。		